



## 「頭にある海の中の地図が変わったかも…」

### 輪島の海女に全国の海女が支援の手

能登半島地震では海岸で地盤の隆起が起き、漁業への影響が懸念される。海女漁がさかんな石川県輪島市でも、被災した海女たちが生業の今後に気をもむ。海は姿を変え、船を出すこともできない。「そのつらさは分かる」と全国の海女たちに、支援の輪が広がっている。

「海が変わってしまったかも」。地震で壊れた自宅から離れ、市内の親族宅で避難生活を送る輪島市の海女、早瀬千春さん(53)はそう話す。市内に130人ほどいる海女の中では若手とはいえ、この道40年近く。「海の中の地図が頭にあって、『この方向に行けばアワビが出てくる』と分かる。だが地盤の隆起で海中の状況がどうなっているのか、分からない。そもそも船も出せない状況が続く。

輪島の海女漁では、船に海女4〜8人ほどが乗り合わせ、市北方の沖合約50キロにある舢倉(へぐり)

▲海の博物館(三重県鳥羽市)によると、全国の海女は1000人前後とみられる。輪島市の海女漁は、「輪島の海女漁の技術」として国重要無形民俗文化財にも指定されており、アワビやサザエ、クロノリ、ワカメなどを捕る。市内には海女が約130人いるとされ、そのうち120人ほどが地震の被害が大きかった市中心部付近の海士町に集中している。

画像：ほっと石川旅ねっと・世界農業遺産「能登の里山里海」  
[http://noto-satoyamasatoumi.jp/detail.php?t\\_p\\_no=90](http://noto-satoyamasatoumi.jp/detail.php?t_p_no=90)

ら)島や、約20キロに位置する七ツ島周辺まで出て、アワビやサザエなどを捕ってきた。別の海女(70)は「みんな、避難所や市外の親族の家などばらばらになった。また潜りたくても、人がいないとできない」と肩を落とす。

苦境を受け、全国の海女たちが手を差し伸べる。早瀬さんの知人で京都府伊根町の海女、大西幸子さん(44)は「輪島海女支援ネットワーク」を設立。元日の地震があった瞬間、たまたま、早瀬さんと電話中だった。「うれしいときもつらいときも、同じ海女として感覚は一緒。なんとかしたかった」。全国の海女の約半数がいる三重県や福井県、鳥取県など各地の海女や漁業関係者らに交流サイト(SNS)を通じて呼びかけ、物資や義援金を集めた。

支援物資第一弾として18日、早瀬さんのもとに、防寒着、トイレットペーパー、常備薬など

## 「全体的に海が浅くなっていた」

### 海女100人が漁の再開目指し 海中で海藻の生育調査

能登半島地震で海底が隆起し、船が港から出せないなど大きな被害が出ている石川県・輪島の漁業は、まだ再開のメドが立っていません。こうした中、輪島市では海女たちが漁の再開を目指して、海藻の生育調査を行いました。

「金沢へ行ってアパートにいた。何もせんと喜らしていた。潜るといつていたので、きのう来た。地震の影響で、いつもならもっと早く海に入っていた」

調査には、輪島の海女漁の担い手となる海士町磯入組合から、およそ100人が参加し輪島港から10キロほど離れた深見地区と大谷内地区の漁場を調べました。中には2023年9月末の漁期終了から9ヶ月ぶりに海に入った海女たちも…およそ3時間ほど海の中で調査を行いました。地震前とは様子が変わっていました。

「いつも7月の初め頃だし、ちょっと短かった」

「全体的に海が浅くなっていた。沖のほうも岸のほうも全体に浅くなっていた」

サザエやアワビ漁の漁場となる舢倉島でも調査が行われ、海女たちが潜って現状を確認しました。(北陸放送)

資料：「能登の里山里海」世界農業遺産活用実行委員会、中日新聞、TBS NEWS DIG、北陸放送

we support!

RQ  
災害教育  
センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけさきた』しんぶん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である。

JULY  
11  
2024

